大阪公立大学
Osaka Metropolitan University
学術情報リポジトリ

保育所における生活課題を抱える保護者への支援：保護者支援・保護者対応に関する文献調査から

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-04-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中谷, 奈津子, 鶴, 宏史, 関川, 芳孝 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24729/00006046

保育所における生活課題を抱える保護者への支援
―保護者支援・保護者対応に関する文献調査から―

中谷奈津子*・鶴宏史**・関川芳孝*

１．問題の所在と目的

本論は、保育所における保護者支援について考察するものである。ここでいう保護者支援は、単なる育児相談や子育てに関する相談にとどまらない、保護者の生活課題への対応を含むものである。

従来、保育所における保護者支援は、少子化や核家族化、家庭や地域の子育て機能の低下等を背景にめざましく進められてきた（中央児童福祉審議会基本問題部会1996）。1997年の児童福祉法改正により、保育所における保育に関する相談・助言の努力義務化が示され、続く1999年の保育所保育指針第２次改訂では、「保育所における子育て支援及び職員の研修」の章が創設されている（厚生省児童家庭局長1999）。これにより保育所は、子育てに関するノウハウの蓄積を活用し、地域における子育て支援の役割を総合的かつ積極的に担うことが求められるようになった。さらに2001年改正児童福祉法では保育士資格が法定化され、保育士の業務として「児童の保護者に対する保育に関する指導」が加えられた。2008年の保育所保育指針第３次改定の際にも、「保護者への支援」の章が独立して設けられ、保育士の専門性を活かした子育て支援の役割が、特に重要なものとして位置づけられるようになっている（厚生労働省2008）。こうした法令や保育所保育指針における保護者支援の明示は、保育所における保護者支援が、保育業務と並ぶ重要な役割として社会的にも共通認識され、大きな期待が寄せられるようになったことを示すものであるが、その援助内容は次第に、単なる子育てのノウハウの提供から、ソーシャルワーク機能を持つ援助へと展開してきている。

例えば、先の保育所保育指針解説書においても、保育所における保護者支援には、保育所における専門性の範囲と限界を熟知したうえで、職員が相応に相談・助言におけるソーシャルワークの機能を果たすことも必要になると示されている（厚生労働省2008：185）。ソーシャルワークについては、生活課題を抱える対象者と、対象者が必要とする社会資源との関係を調整しながら、対象者の課題解決や自立的な生活等を支える一連の活動であると説明され、保育所においてはその知識や技術を一部活用することが推奨されている。ソーシャルワークは、生活困難な状況に人々がどうしても自力で思うように脱することができず、生活を営むことができないときに（大島1999：20）必要とされるものである。つまり、子どもの育て方や遊び方、生活リズムの形成などの子育てのノウハウだけでなく、貧困や離婚問題など子育ての基盤となる家庭生活が何らかの危機に遭遇し、そのままでは家庭生活を継続することが難しくなる場合にも、子どもの最善の利

*　大阪府立大学人間社会学部
**　武庫川女子大学文学部

益を考慮すべき保育所が保護者支援としてソーシャルワーク機能を活用していくことが想定されることになる。

では、実際の保育所における保護者支援の場面では、どのような生活課題に対応しているのか。保育所におけるソーシャルワーク（以下、保育 SW）に関する研究については、すでにいくつかの論考があるが（山縣ら2008、鶴2009、山本2013）、それらを概観した鶴らによれば、これまでの保育 SW に関する論考では、子育て以外の生活課題について具体的に言及する研究は少ないという（鶴・関川・中谷2014：682）。また先行研究では保育士が保育 SW の担い手とされる論考が多くみられたが（山縣ら2008：10）、実際の保育現場では園長、主任、担任といった職階が存在し、一保育士が単独で他機関との連携をとることは難しい。つまり保育所内では、さまざまな役割の職員が組織的な体制を組むことによって保護者支援を行っていると予想される。さらに保護者の生活課題に保育所のみで対応することは不可能であり、他機関との連携が必要となるが、その実態も定かでない。加えて既存のソーシャルワークの機能からみると保育所における保護者支援の独自性についても明らかにされていない。こうした検証は恐らく、「保育 SW」という学術的なアプローチから可能となるものではなく、「保育所における保護者支援」という具体的な実践報告等から帰納的にまずは読み取る必要があると思われた。

そこで本論では、保育 SW という理論的枠組みからではなく、保育現場で行われている保護者支援の具体的な取り組みを先行文献から読み取ることにより、現在保育所が対応している子育て以外の生活課題を抽出し、生活課題に対応する際の保育所の特性と組織的対応の実態を明らかにしていく。その上で保育所を基盤とする保護者対応・保護者支援の特性や可能性を考察していくものとする。

２．方法

文献検索は CiNii（Nii 論文情報ナビゲータ）を用いた。保育所で現在対応している生活課題を把握するために文献抽出のキーワードを「子育て支援」ではなく「保護者＆支援／対応」と設定した。検索のためのキーワードは表1のとおり（最終アクセスは2013年８月26日）。学会発表要旨、産業資料は除外し、学会誌、紀要等の論文、実践報告、事例報告を選択した。これら抽出作業を経て、本論文に直接関連すると思われる文献をさらに選択した。保護者の意識調査、ニーズ調査、育児不安研究、保護者自身の子どもへの対応に関する研究、歴史研究、地域子育て支援センターに関する研究等は除外した。これらの手続きの結果、37件の文献が抽出された。先行文献の分析枠組みは、①支援の対象者、②対応した生活課題、③生活課題に対応するための業務の機能、④支援の担い手、⑤組織的対応の有無、⑥他機関等との連携、⑦基礎となる援助理論とする。

表１　検索のためのキーワード一覧

1	「保育所」	「保護者」	「対応」
2	〃	〃	「支援」
3	〃	「家族」	「対応」
4	〃	〃	「支援」
5	〃	「家庭」	「対応」
6	〃	〃	「支援」
7	〃	「親」	「対応」
8	〃	〃	「支援」

表２　分析の対象となった文献一覧

No	著者	題名	雑誌名、巻号	ページ	出版年
1	矢野友子、隅田和子、中川かをり	実践報告　子育て困難な家族を支える保育―虐待問題に対応する―	保育の研究(18)	24-27	2001
2	千葉郁子	保育士の立場から：保育所での母親・家族への支援	小児看護２４（13）	1812-1815	2001
3	広利吉治	保育所集団で不適応を起こした愛着障害幼児のケアーと家族支援	宮城学院女子大学発達科学研究（1）	29-36	2001
4	網野武博	子ども・家庭・地域・外国人保育の課題と展望-我が国における行政の対応状況と保育所での受け入れ	月刊福祉８４（5）	88-91	2001
5	二宮桂子	安心して暮らせるまちづくりをめざす―保育所の子育て支援と地域活動―	福祉のひろば17（382）	16-21	2001
6	鈴木美子	実践報告２生活困難家庭を支える保育（特集保育所の役割・家庭の役割）	保育の研究（19）	24-26	2002
7	文責：編集部	保育所が行う地域子育て支援をすすめる―親になることを支援する存在をめざして―	月刊福祉８６（1）	42-45	2003
8	中川かをり	公立保育所での家族支援	季刊保育問題研究(210)	117-126	2004
9	片山順子、小方圭子、木山徹哉ほか	親子関係支援としての音楽表現やり取り遊び：保育所における地域子育て支援の内容と方法	九州女子大学紀要．人文・社会科学編41（1）	27-38	2004
10	岩崎美智子	親子の「生」を支える：保育所における子ども虐待への支援	鳴門教育大学研究紀要21	95-101	2006
11	金子恵美	保育所における保護者支援の意義と方法	保育の友55（12）	22-25	2007
12	千葉千恵美､鏡さやか、渡辺俊之	保育所保育士による家族支援	高崎健康福祉大学紀要６	91-104	2007
13	下野未紗子、稲富眞彦	保育所における「気になる」子ども―行動特徴、保育者の対応、親子関係について―	高知大学教育学部研究報告（67）	11-20	2007
14	斎藤愛子、中津郁子、栗飯原良造	保育所における「気になる」子どもの保護者支援	小児保健研究67（6）	861-866	2008
15	斎藤幸子、須永進、青木和史	保育所における保護者のニーズとその対応に関する調査	日本子ども家庭総合研究所紀要45	303-310	2008
16	斎藤和子	保育所における子ども家庭支援に求められる保育士の専門性	白梅学園大学・短期大学紀要44	33-46	2008
17	千葉県／私立保育園	身近な「親支援」施設としての保育所	月刊福祉91(10)	28-31	2008
18	佐々木さつみ	子育て期の母親が抱える困難と「子育て支援」の方向―呉市における保育所・幼稚園調査をもとに―	社会文化論集（10）	95-126	2008
19	岩崎美智子	支援・応援・援助：保育所保育士による親子支援の現場から	東京家政大学研究紀要48(1)	49-58	2008
20	久保山茂樹、斉藤由美子、西牧謙吾ほか	「気になる子ども」「気になる保護者」についての保育者の意識と対応に関する調査	国立特別支援教育総合研究所研究紀要36	55-75	2009
21	橋本真紀	保育所の児童虐待対応における保護者への支援	小児看護32(5)	614-619	2009
22	兵庫保問研子育て支援部会	保育所の保護者支援	季刊保育問題研究（236）	312-316	2009
23	豊永せつ子	保育所の機能や特性を生かした子育て支援―保護者に対する支援―	別冊発達（29）	205-211	2009
24	柏女霊峰、有村大士、板倉孝枝ほか	子ども家庭福祉分野におけるソーシャルワークとケアワークの体系化に関する研究（１）児童福祉施設における保育士の保育相談支援（保育指導）技術の体系化に関する研究（１）保育所保育士の技術の把握と施設保育士の保護者支援	日本子ども家庭総合研究所紀要４６	31-84	2009
25	岩崎美智子、松本なるみ	「剥奪」とのたたかい：保育所保育士による親支援	人間文化研究所紀要３	1～9	2009
26	小口将典	子育て家庭を支える保育所給食の役割	医療福祉研究（６）	80-88	2010
27	斎藤幸子、須永進、青木和史	保護者のニーズとその対応-保育所と幼稚園における調査結果の比較	日本子ども家庭総合研究所紀要４７	329-336	2010
28	山野良一	保育所で支えられる親と子―児童相談所の視点から―	季刊保育問題研究（244）	62-68	2010
29	大原麻由、横山順一、横山和恵	多くの問題を抱える家庭への保育所における支援	山梨学院短期大学研究紀要３１	15-26	2011
30	高井由起子	虐待ハイリスク家族への支援に関する論考―保育所内における支援を中心として―	社会福祉士（１８）	18-24	2011
31	別府悦子、西垣吉之、水野友有ほか	幼稚園・保育所（園）における「気になる」子ども・保護者への対応の実態と保育者養成	中部学院大学・中部学院短期大学研究紀要（12）	119-128	2011
32	小川晶	保育所における高学歴・高齢初出産母子に対する支援：母親と保育者の関係構築を基軸として	保育学研究４９（１）	51-62	2011
33	中村みゆき	発達障害と地域支援（2）気になる子どもの子育て支援：保護者と子どもの架け橋になったＭ保育所での「CLM と個別の指導計画」を活用した支援	子育て支援と心理臨床６	124-128	2012
34	宮崎つた子、梶美保	保育所における保護者支援のあり方に関する一考察	高田短期大学紀要３０	131-139	2012
35	平野華織、水野友有、別府悦子ほか	幼稚園・保育所における「気になる」子ども・保護者への対応の実態	中部学院大学・中部学院大学短期大学部研究紀要（13）	145-152	2012
36	野島千恵子	保育所が取り組む育児困難家庭への支援	保育の友60（11）	13-16	2012
37	蕨川晴之	釜ヶ崎の真ん中にある保育所で：さまざまな事情を抱える親と子への支援	福祉のひろば146	10-17	2012

３．結果

以下、先行文献を①支援の対象者、②対応した生活課題、③生活課題に対応するための業務の機能、④支援の担い手、⑤組織的対応の有無、⑥他機関等との連携、⑦基礎となる援助理論の枠組みで整理したものを報告する。

（１）支援の対象者

ほとんどの文献が保育所入所の保護者を支援の対象としていた。37文献中34文献が保育所入所の保護者であった。次いで保育所入所の子ども(17文献：以下、数字のみ掲載)、地域の子育て家庭(12)という結果となった。地域住民など子育て家庭以外の対象者は見られなかった。

（２）対応した生活課題

対応した生活課題については、具体的にあげられている文献が多くみられた。従来から指摘される子育てに関する課題の記載は24文献で見られ、中でも虐待（16）が最も多く、次いで子どもの発達問題（7)、子どもの障害（5)、育児不安（4）と続く。子育て以外の課題は18文献で記載され、親の精神疾患（9)、親の低い養育能力（8)、経済的問題（5)、社会的孤立（5)、DV（4)、夫婦間のトラブル(4)、ひとり親家庭(4)、家族関係の調整(3)といったものが抽出された。実際の保育現場では、子育て以外の生活課題にも直面し、対応すべき課題となりつつあることがわかる。

表３　抽出された生活課題の内容　（37文献中）

		生活課題の内容	度数
子育てに関する課題		子育てに関する課題が抽出された文献	24
	内容（複数カウント）	育児不安	4
		虐待	16
		母子関係の改善	2
		愛着障害	1
		子どもの障害	5
		子どもの発達問題(気になる子)	7
		保護者の苦情	4
		小計	39
子育て以外の生活課題		子育て以外の生活課題が抽出された文献 (家庭生活の維持・継続を難しくさせるような困難。本論ではさらにこれまで保育領域で支援が必要とされてきた「虐待」「子どもの障害」「母子関係」「育児不安」等は除くものとした。)	18
	内容（複数カウント）	親の精神疾患(人格障害、分裂病、うつ)	9
		低い養育能力	8
		親の病気やけが	2
		経済的問題	5
		保護者の仕事・失業	2
		社会的孤立	5
		夫婦間のトラブル	4
		家族関係の調整	3
		DV	4
		アルコール依存	1
		ひとり親家庭	4
		若年出産	1
		多子家庭	1
		言葉、意思疎通(外国籍)	2
		不法滞在	1
		宗教による生活習慣の相違	1
		小計	53

（３）生活課題に対応するための業務の機能

生活課題に対応するための業務の機能については、鶴ら（2014）の保育におけるソーシャルワークの機能・役割に、「早期発見」機能を付加した17項目をもとに整理した。「早期発見」機能を付加した理由は、保育所は日々子どもや家庭とともに生活する場であり、虐待事例に限らず様々な保護者の生活課題を発見しうる場であると考えたこと、文献整理の作業を行った際、実際に早期発見についての記述が散見されたことがあげられる。なお、機能の抽出・整理に当たっては、文献の中でその機能が明記されたものだけでなく、文脈上読み取れる機能についても抽出し、取り上げた。

分析の結果、最も多いのは側面的支援機能（19）であり、次いで連携機能（18)、相談援助機能（17)、管理・運営機能（14）と続くことが明らかになった。子育てサークルの結成など地域子育て支援で期待される交流支援・組織化機能は7文献、早期発見機能は11文献でみられた。

表4　生活課題に対応するための業務の機能と文献中の表記例

	機能・役割	文献中の表記例	度数
仲介	子どもや保護者と、社会資源の仲介者としての役割。保護者に必要な専門機関を紹介するとともに、専門機関との連絡や調整などを行う。	・子どもには認識の弱さがあったので保健センターにつないで（15）	8
調停	子どもや家族と地域社会の間での意見の食い違いや争いが見られる時、その調停者としての役割。親子関係、保護者関係などの調整を行う。	・おばあちゃんに「やはりこのままではいけないと思うのだけれど、お母さんと一緒に何とか考えられませんか」（8）	6
代弁	ニーズを自ら表明できない子どもや保護者の代弁者としての役割。保護者に対する子どもの代弁・権利擁護（虐待対応含む）や、地域の保育ニーズへの対応するために保護者を代弁する	・「KちゃんもHちゃんもお母さんが迎えに来て嬉しくて、抱っこしてほしかったんだよね」と代弁した（32）	1
連携	各種の公的な社会的サービスや多くのインフォーマルな社会資源の間を結びつける連携者としての役割。保護者との連携したり（パートナーシップを形成したり）、他専門機関との連絡、調整、ネットワーク形成などを行う。	・家庭児童相談員さんに相談し、一緒にかかわることになりました（5）	18
処遇	施設内の利用者に対する生活全体の直接的な援助、指導、支援者としての役割。日々の保育活動を行う。	・情緒的安定－保育所が安心できる居場所になるようにする。食事などきちんと栄養をとれるようにする。（10）	7
相談援助	対等な関係性をもとに、保護者（親子）とともに問題解決に取り組み、協働するための役割（カウンセラーやセラピストの役割も含む）。子育て相談や助言などを行う。	・育児相談（5） ・無料の心理相談を、毎週木曜の午後に予約制で（7）	17
教育	保護者に情報提供をしたり、新たなスキルを提供したり、学習する場を提供する役割。各種の情報提供を行ったり、子育てに関するスキル学習（行動見本の提示など）を行う。	・「子どもが不服な顔をしたら、『どうしたの？』と聞いてね」と、具体的な声かけ方法を示すようにしています。（36）	12
保護	生活上に深刻な問題を抱え、生命の危機的状況にあるような状態にある親子に対して、安全な環境を確保する役割。児童虐待からの保護などを行う。	・やっと初めて保育園に通うことになり、外に出た子どもが太陽を見て、「まぶしい」とつぶやいた（37）	1
交流・組織化	フォーマル、インフォーマルな活動や団体を組織する役割。保護者同士をつないだり、子育てサークルの組織支援を行ったりする。	・保育所を卒園した親達と交流会や勉強会を開いたりして（1）	7
ケースマネージャー	個人や家族へのサービスの継続性、適切なサービスの提供などのケースマネージャーとしての役割。子どもや親に適切な社会資源を結びつけたり、組み合わせたり、他専門機関との連絡・調整を行う。	・長期的に見守っていた立場から、Bちゃんを支援するネットワーク機能の中核的な役割を担うこともあった。（17）	6
側面的支援	保護者が主体的に子育てに取り組めるように側面的に援助する役割。	・日常の親たちとのちょっとした会話は、親の子育てへの意欲をわきたたせるものにも(17)	19
管理・運営	保育所組織で目的達成のために方針や計画を示し、組織が適切に機能するの維持・調整・管理の役割。所長や主任が保育所の運営管理、職員同士のチームワークの調整を行う。	・若い保育士の中にとっても、保育所内での役割分担が明確にされ、問題への対応について、情報交換、話し合いが行われ、スーパーバイズされることで、円滑なチームワークが築け、より良い援助が行われる。（16）	14
スーパービジョン	一定の経験を積んだ保育士（園長、主任を含む）による、適切なサービス提供を可能にする支援、保育士の力量向上のための支援を行う役割。保育士への指導・研修を行う。	・個別のケース研究などを通じてスーパーバイズがなされなければならない（3）	5
調査・計画	地域の子育てニーズをやサービスの整備状況を把握し、その整備などを計画的に進める役割。地域の子育てニーズなど調査したり、対応したりする、また地域の資源の掘り起こしや地域住民の参加を促したり、ボランティア育成を行う。	・このときのアンケートを通じて、（5）	1
社会変革	地域の偏見・差別などの意識、硬直化した制度などの変革を行う社会改良・環境の改善を働きかける役割。子育てしやすい地域や社会をつくるためのソーシャルアクション。	…	0
早期発見	虐待事例に限らず様々な保護者の生活課題を発見する役割	・日常の子どもや親の様子から親子関係・家族関係の危険なサインを読み取る（2）	11

（備考）機能・役割については、鶴ら（2014）をもとに、「早期発見機能」を付加した。（　）内の数字は、表2文献一覧の通し番号を指す。

（4）支援の担い手

職員会議、ケース会議、役割分担等の組織的対応がみられた文献は、直接「保育所」という記載がなくても、「保育所」に含めて分類した。その結果、保育所（31）、保育士（6）となった。保育研究所等その他の記述がみられるものもあった。

（5）組織的対応の有無

ケース会議、職員会議、役割分担、情報共有などの記載があるものを組織対応「有り」として分類した。組織的対応の記述がみられたものは14文献であった。

（6）他機関等との連携の有無

保健所・保健センター、医療機関、市町村の所管、児童相談所などとの連携が多くみられた。育児サークルや地域の人などのインフォーマルな資源との連携も確認されている。学校や教育委員会、幼稚園など、福祉機関だけでなく教育機関との連携もみられている。

（7）基礎となる援助理論

基礎となる援助理論を推察することが難しいものが多くみられた。明確なところでは、ソーシャルワークを土台としているものが５文献、保育相談支援２文献であった。その他、臨床心理学、心理学、社会学、特別支援教育などが基礎理論としてうかがえた。

表5　組織的対応の内容

組織的対応の有無		14
内容（複数カウント）	職員間で情報共有	2
	職員間で対応協議	4
	ケース会議	7
	園内の役割分担	8
	園全体の体制	4

（備考）37文献中の度数

表6　他機関等との連携の有無

他機関との連携の有無		20
内容（複数カウント）	保健所・保健センター	17
	医療機関	10
	市町村の所管	9
	児童相談所	9
	家庭児童相談室	8
	民生委員	7
	学校	6
	育児サークル	4
	地域の人	4
	福祉事務所	3
	ほかの保育園	2
	幼稚園	2
	療育センター	2
	教育委員会	2
	臨床心理士	2
	その他	7

（備考）37文献中の度数。その他には、福祉センター、校区福祉員、助産師、学童保育、警察、社会福祉士、児童福祉施設が含まれる。

４．考察

以下、これまでの保育 SW に関する調査研究と比較しつつ考察を行う。

（1）限定される支援の対象

まず今回の分析では、支援の対象はほとんどが保育所入所の保護者であった。山縣らは、保育所におけるソーシャルワークの対象として「入所児童の保護者」「地域の子育て中の保護者」をあげるものがほぼ同数としてカウントされ、それらの家庭を対象とする者が多数と指摘しつつも、地域やその他への支援も確認されたと報告している（山縣2008：８）。本論においては、保育所入所の保護者と子どもを主な対象としており、地域の子育ての中の保護者の抽出度数はかなり低いものとなった。また地域を対象とするという論考は抽出されなかった。保育 SW という概念的なアプローチからは想定されうる対象者が、実際の保育現場からとらえる場合、それほど頻繁に考慮されているものではなかったとも考えられる。保育所や保育士からすれば、まずは目の前の入所の保護者や子どもをどうするかという課題に直面せざるを得ない現状にあること、保護者の立場からすれば、深刻な課題を抱える際には保育所における園庭開放や体験保育等には参加する余裕などないとも考えられる。

（2）子育て以外の生活課題の多さ

鶴らの保育 SW の文献整理では（鶴・関川・中谷2014：682）、保育所における保護者支援において、子育て以外の生活課題への対応に言及した文献は35文献中10件あったという。しかしその内容については、「子どもの貧困」に関するもの以外は、具体的内容は明確ではなかった。一方

本論においては、その生活課題について具体的にあげられているものが多くみられた。虐待や育児不安、子どもの障害等の子育てに関するものに限らず、親の精神疾患、低い養育能力、親の病気やけがなど、家庭の子育て基盤を揺るがすさまざまな要因が抽出された。子育てに関する課題、子育て以外の生活課題の項目や小計を比べてみると、保育所で対応する保護者支援は、子育て以外の生活課題の方が多様であることが示唆される。現場の保育所においては、すでに日々さまざまな生活困難に対応することが求められているものと思われる。

（３）保育所の強みとなる側面的支援機能と早期発見機能

保育 SW の観点からは、相談援助機能、連携機能、交流支援・組織化機能がその業務内容として上位を占めている（鶴・関川・中谷2014：682)。また山縣ら（2008：９）の整理においても、相談・助言が最も多く抽出され、次いで関係機関との連携・ネットワーク、交流支援と、鶴らと同様の結果となっている。

しかし「保育所における保護者支援」という枠組みでは、側面的支援機能が最も多く抽出され、次いで、連携機能や相談援助機能があげられており、交流・組織化機能はそれほど抽出されなかった。側面的支援機能には日常の見守りや保護者へのさりげない言葉かけ、意図的な世間話なども含まれている。それは生活や保育の中に当たり前に溶け込んでいるがゆえ、これまでは保育士や保育 SW の役割として抽出されにくいものであったと思われる。しかしその機能は日々の生活を生きる保護者にとって、信頼関係や安心感の土台にもなり得るものであると思われる。支援を必要とする保護者に対して、いかに意図を盛り込んだ言葉かけをしつつ保護者を支えていくかが、保育所における保護者支援の「強み」となると考えられる。

交流・組織化機能がそれほど多く抽出されなかった理由として、文献抽出の方法も一因ではないかと考えられる。つまり、「子育て支援」として文献を抽出するか、「保護者支援」で抽出するかによって、浮かびあがる支援の機能も異なるということである。「子育て支援」をキーワードとして文献抽出した場合には、恐らく、交流・組織化機能はより多くの度数が抽出されたのではないかと考えられる。

また、管理・運営機能も多くみられた。これは保育所組織での目的達成のために方針や計画を示し、組織が適切に機能するための調整や管理を意味する。鶴らの保育 SW の報告では、管理・運営機能はほとんど確認されていないことを考えあわせると、保育 SW という学術的なアプローチでは、対保護者、対機関など、対外的な機能が多く確認される傾向にあると思われ、「保育所における保護者支援」という実践に即したアプローチからでは、組織内での計画や方針、役割分担の工夫などがより語られるものと思われた。保護者支援においては、一保育士が単独で行うのではなく、保育所内でさまざまな調整を行いながら組織体として対応しているのではないかと思われた。あるいは組織体として対応する方が、困難事例における効果をより実感できた可能性もある。

さらに、早期発見機能についても多く抽出された。文献中では、保育所は早期発見に関する役割を果たす立場にいることが示され、その重要性を確認する記述が多く見られている。保護者や子どもと生活をともにする保育所においては、その見極めのための力量さえ備えれば、各家庭の

生活困難を早期発見することが可能となるとも考えられる。保護者支援における早期発見機能は、側面的支援機能と同様に、保育所の強みとなる可能性も考えられる。しかし、今回の分析では、生活困難の見極めのための具体的な兆候やサインまでは示されることはなく、それらを整理することはできなかった。先行研究において虐待の早期発見のチェックリストは既に散見されるところであるが（千葉2006：74、柳川2000：14）、生活困難に関するチェックリストや見極めの視点の明確化が今後求められるところである。

（４）すでに取り組まれつつある組織的対応

支援の担い手について整理したところ、「保育士」よりも「保育所」の方が多く抽出された。また組織的対応については、園長、主任、担任、看護師等による役割分担、情報共有、方針の決定などの具体的な記述がみられている。山本は解決困難な事例については、保育士個人が対応するのではなく、組織的体制を整えるべきと指摘している（山本2013：56）。また橋本は、保育者が家庭支援を行う場合、組織内の援助体制の構築が重要として、組織内での役割分担を例示している（橋本2011：97）。さらに土田は、担任保育士によるケアワークと園長によるソーシャルワーク支援の連続性の確保が重要であると指摘している（土田2012：135-6）。本論における分析結果は、これら課題として指摘されてきた事項を幾分か乗り越えているようにもみえるものであり、実際の保育所における保護者支援では、保育所内の組織的対応が浸透してきている可能性もあるのではないかと思われた。あるいは、深刻な事例に向き合う場合、組織的対応が必然であるとも考えられる。

しかし鶴らの保育 SW の文献整理では、職員組織の連携（今堀2005）、職員全体の共通認識（伊藤・渡辺2007）等の重要性が指摘されるものの、全体としては組織的対応に言及した文献は35文献中９件と、本分析よりも若干少なくなっている。保育 SW の理論的側面からその機能や役割を俯瞰すると、連携や交流支援など意識的に行わないと実現しない機能は抽出されやすいが、職員同士の連携といった日常当たり前のこととして展開されている機能はむしろ把握しにくいものとして流される傾向にあったのではないかとも考えられる。

（５）多様で複雑な他機関等との連携

保育所と他機関との連携については、保健所・保健センター、医療機関、市町村の所管、児童相談所などとの連携が多くみられた。橋本らは、保育所保育従事者による最も多い連携先として、市保健師、学校、児童相談所などを指摘したが（橋本・扇田・多田2005：82）、本分析でも、その内容とほぼ重なる結果となっている。ただ、本分析では橋本らの調査項目には含まれていない機関として、医療機関、市町村の所管が抽出された。特に医療機関については、子どもの障害や疾患だけでなく、親の深刻な育児ストレス、親の精神疾患など親側の要因への対応の必要から連携が行われていた。さらに虐待への対応の一環として保育所から医療機関に受診する（中川2004：120）などの連携もうかがえた。非常に複雑で複合的な課題に直面しなければならない事例も多いものと思われるが、保育所には、当該施設の持つ機能の独自性と限界に向き合いながら、その家庭のニーズにとっての「次の手」となる関係機関や社会資源（子育てサークル、地域の人なども含む）をともに模索し、その両者を実際につないでいくといった、保護者にとってのスム

ーズな連携機能が求められているものと思われた。

（6）試行錯誤で行われている保護者支援

基礎となる援助理論については、ソーシャルワークがわずかに確認されるものの、明確に示されるものは少ないことも明らかになった。このことは、保育所における保護者支援では、体系化されたソーシャルワーク等の援助技術を修得し、意図的にそれらを活用しているというよりも、目の前の保護者の困難に何とかして対応していこうと模索し、試行錯誤しているうちに、結果としてソーシャルワークの機能が果たされていた、ということを意味するのではないかと思われる。

５．まとめと今後の課題

先行文献の整理により、現在保育所が対応している保護者支援における子育て以外の生活課題を明らかにし、保育所の特性と組織的対応の実態について検討してきた。保育現場で扱われる保護者の生活課題は、子育てに関する課題よりも多様性に富んでいること、対象者は入所の保護者や子どもとしての報告が多いことが確認された。また、これまで保育 SW の分野で指摘されてきた相談援助機能、連携機能、交流支援・組織化機能も、保護者支援の文献から抽出はされたが、保育所の独自性であり強みとして考えられるのは、むしろ「側面的支援機能」や「早期発見機能」ではないかと思われた。これらは日常をともに過ごす保育所だからこそ可能となる機能である。さらに保育所の特性と限界を踏まえ、必要な社会資源に「つなぐ」連携機能も重要となる。

これらの機能をより有効に果たすためには、「早期発見」→「組織的対応」・「側面的支援」→「必要を見極めた他機関連携」などのプロセスがスムーズに行われることが求められる。一人一人の保育士の専門性や援助技術の向上も必須となるが、保育所全体で方針を共有し役割分担や定期的な評価を繰り返しながら、組織としてチームワークをとりながら関わっていくことが重要となろう。そのためには日常の保育を基盤としながら組織内をマネジメントしていく役割の担い手が必要となると思われる。組織内のマネジメントについては、主任保育士や園長などが担い手として想定される。また保育者養成課程における家庭支援論や保育相談支援などの科目で、これから保育士になる学生たちが組織的対応への視座をもち、全体の中に位置づく一保育士の役割とその重要性を認識していくことも求められよう。具体的な連携については、園長や主任保育士等の役割として認識し研修システムを開発したり、あるいはソーシャルワーカーの配置・巡回なども想定されるところである。何より、保育所内で課題を抱え込まず、困難な事例が必要な資源にスムーズに結びついていくことが望まれよう。

最後に今後の課題を述べる。今回は、先行文献からの分析であった。先行文献に掲載される事例の多くは先駆的なものが多いと予想され、実際の保育現場との乖離も考えられる。今後は、アンケート調査などを通して、保育所全体がどのような課題にどのように対応しているのか、組織内の体制の明確化も含めてその現状を把握し検討していくことも求められている。その上で、保育を基盤とし、その特性を生かした保護者支援のあり方を模索していく必要がある。

【引用文献】

伊藤利恵・渡辺俊之（2008）「保育所におけるソーシャルワーク機能についての研究―テキストマイニングによる家族支援についての分析―」『高崎健康福祉大学総合福祉研究所紀要』第５巻（2）p. 1～26

今堀美樹「保育ソーシャルワーク研究―保育所におけるスーパービジョンの適用方法をめぐって―」『神学と人文』第45集 p. 147-154

大島侑「ソーシャルワークとは」（1999）大島侑監修『社会福祉援助技術論』ミネルヴァ書房

厚生省児童家庭局長（1999）「保育所保育指針」児発第799号

厚生労働省（2008）「保育所保育指針」告示第141号

厚生労働省（2008）「保育所保育指針解説書」フレーベル館

千葉茂明（2006）「虐待を見逃さないチェックポイント」『児童心理』（837）p. 70-75

中央児童福祉審議会基本問題部会（1996）「少子社会にふさわしい保育システムについて（中間報告）」中央児童福祉審議会基本問題部会中間報告

土田美世子（2012）『保育ソーシャルワーク支援論』明石書店

鶴宏史（2009）『保育ソーシャルワーク論』あいり出版

鶴宏史（2009）『保育所におけるソーシャルワーク実践研究』大阪府立大学博士学位論文

鶴宏史・関川芳孝・中谷奈津子（2014）「保育所における生活課題を抱える保護者への支援（1）」『日本保育学会第67回大会発表要旨集』p. 682、及び当日配布資料

中川かおり「公立保育所での家族支援」（2004）『季刊保育問題研究』（210）p. 117-126

橋本真紀（2011）「家庭支援の展開過程」橋本真紀・山縣文治編『よくわかる家庭支援論』ミネルヴァ書房 p. 96-97

橋本真紀・扇田朋子・多田みゆき（2005）「保育所併設型地域子育て支援センターの現状と課題」『保育学研究』第43巻（1）p. 76-89

柳川敏彦（2000）「子どもの虐待における保育所の役割を考える」『保育の友』第48巻（13）p. 11-16

山縣文治・金子恵美・中谷奈津子ほか（2008）『保育士の子育て支援業務におけるソーシャルワーク機能の検討』大阪市立大学生活科学少子社会科学研究室

山本佳代子（2013）「保育ソーシャルワークに関する研究動向」『山口県立大学学術情報』第６巻 p. 49-59

【付記】

本研究は、JSPS 科研費25350936の助成を受けたものである。

Supports for parents who have the life tasks in day care centers:

Through analysis of the previous studies about supports for parents

Abstract

This study is aimed to grasp the life tasks except child-rearing which day care centers have dealt with, and to clarify the characteristics of day care centers and the situations of organizational efforts to support to parents and family in day care centers. It was examined by analysis of the previous studies extracted with keywords, day care center, parents and supports.

As a result, we found that the life tasks dealt in day care centers were more diverse than ones in regard to child-rearing, and that the parents and children using day care centers every day were regarded as the subjects for supports. Additionally, we found the terms and practices related to the functions of consultation and assistance, collaboration, and support for exchanges, which have been pointed out in the field of social work, in the previous studies about the supports for parents and family in day care centers. However, the strength and characteristics of day care centers seemed to be the functions of indirect supports and finding the life tasks of every home because day care centers are the places where children, parents and nursery teachers live together.